

緊急レポート！

～震災から5カ月の被災地で～



2011年8月1日。

ちょうど2カ月前の今頃、私は東北の地に足を運んでいた。

この時期に、どうして東北なのか。そこには、2つの理由がある。

1つは、今年6月にユネスコの世界文化遺産へと登録されたばかりの平泉に行くこと。平泉がある岩手県は大震災で大きな被害を受けただけに、復興のシンボルともいえよう。そしてもう1つはほかでもなく、陸前高田や南三陸・石巻などといった、津波の影響を大きく受けた地域の“現状”を見つめることである。

ボランティア活動を行うわけでもなく、ただ車の中から被災地を見て回ることは、若干のためらいも確かにあった。まるで冷やかしに来たようで、地元の方々からすれば、決して気分の良いものではないだろう。けれども、今回の大震災を教訓として脳裏に焼き付けておくために、行っておくべきだと考えた。現地で、少しでも復興につながるような消費もしたかった。

それに、今年社会歴史研究同好会の研究テーマは「東日本大震災」。被災地の現状から目をそらしたまま、さも冷徹な客観的事象ばかりを並べたてて偉そうに発表をするだけでは、それこそカタチだけで目も当てられないような浅い内容となってしまいうに違いない。

かくして私は、家族で東北の地を訪れるというだけでなく、同好会の展示や冊子にもこの経験を反映させることにした。その最たるものが、このレポートである。

ただ、文字ばかりのレポートというのはすでに多くの部員がさまざまな切り口から密度の濃いものを書きあげてくれているので、ここでは「写真」を中心とし、視覚的に“東北”が理解できるよう編集している。言葉での説明は、できるだけ簡潔にするよう心がけた。

なお紙面の都合上割愛したが、本当は、仙台駅などで明るく盛大に行われていた七夕祭りの様子なども掲載したかった。それは、このレポートに載せているどうにも黒々しいような風景だけが“東北”ではないのだということを、より多くの人々に伝えたいと思うからである。

社会歴史研究同好会部長 高1 Bentz240

8月2日（水） ホテル～陸前高田



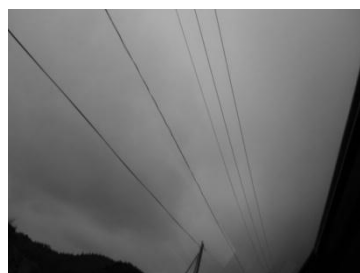
9:31 ホテル

平泉を訪ねて一泊。ホテルをチェックアウトし、いよいよ被災地域へ向かいます。



10:22 北上川

地理の学習でさんざん習った「北上川」を、初めて実際に渡った瞬間です。



11:18 陸前高田

陸前高田へと向かう途中。雲行きがドンドン怪しくなっています。



11:18 陸前高田

陸前高田に入って最初に見えてきたのは、悲惨な壊れ方をしている車の数々でした。



11:24 陸前高田

小さな家はもうありません。あるのは大型ビルと重機と、積み上がる車・タイヤのみ。



11:25 陸前高田

岩手県立高田病院です。小さな写真で見ると被害が無いようですが、実際は深刻です。



11:26 陸前高田

大阪から応援にきたパトカーのようです。瓦礫ばかりの被災地なのに、一般車の交通量が多いのには驚きました。



11:27 陸前高田

こちらは高田松原キャピタルホテル1000。建物自体は持ちこたえたようですが、1階部分が悲惨なことに…。



11:28 陸前高田

震災翌日の中継で、写真に写るスーパーの屋上から人々が救出されていく映像は、今でも鮮明に覚えています。

8月2日（水） 陸前高田～気仙沼～南三陸



11:31 陸前高田

積み上がった瓦礫がすごい。その向こうに見えるのは市立高田小学校。



11:32 陸前高田

これも小さな写真ではわかりにくいですが、窓は割れ、柵はひしゃげて被害甚大。



11:40 陸前高田

高田松原第一球場。スタンド部分が完全に崩壊しています。



11:42 陸前高田

もう日本中に知れ渡った一本松。なんとか撮影することができました。



11:58 気仙沼

まだ、歩道橋に流されてきた漁船がぶつかったまま。ここから南下していきます。



12:02 気仙沼

トイレ休憩に訪れたスーパーの仮設店舗には「がんばろう! 気仙沼」という横断幕。



12:14 気仙沼

石巻・南三陸・大船渡・陸前高田と、津波被害の大きな地名が標識一面にそろう。



12:38 気仙沼

市内のいたる所に「津波浸水想定区域ここまで」の看板が。



13:07 南三陸

こちらの瓦礫の山は小さいながらも片付く気配が全くありません。

8月2日（水） 南三陸～石巻



13:08 南三陸

「陸地に乗り上げた船」というのは、今回の津波被害において象徴的な光景です。



13:09 南三陸

瓦礫の向こうには、「全世界のみなさんありがとう」。地元の方が書いたようです。



13:21 南三陸

雑草の向こうはアパートでしょうか。屋上に車が乗り上げてしまっています。



13:22 南三陸

遠くに並ぶ3つの建物は屋根がめくれ上がって、見るも無残な姿に…。



13:23 南三陸

志津川湾付近。瓦礫は全然片付いていません。骨組みだけを残したビルもそのまま。



13:23 南三陸

おなじく志津川湾付近。真正面には水門のようなものが。（左写真の左端も同じ）



15:02 石巻

昼食を終えて、石巻市内へ。あるのは点灯しない信号と、交通整理の警察官の姿。



15:10 石巻

どこにでもあるような町の郵便局が、ブルーシートで完全に閉めきられています。



15:11 石巻

このフェンスの向こうに、瓦礫の山を集めているようです。

8月2日（水） 石巻



15:12 石巻

民家です。この辺りは地震の影響が大きかったらしく、どれも激しい傾き方。



15:19 石巻

同じく民家。大きめのお宅ですが、屋根は落ちかけ、柵は前のめりになっています。



15:23 石巻

ここにも、交通整理の警察官。暑い中、お仕事ご苦労様です。



15:24 石巻

漁協関係の建物。1階部分は完全に整理が終わったようで、骨組みはむき出しに。



15:30 石巻

そんなに大きな損傷は見られませんが、津波で流された車が大量に積み重なっています。



15:31 石巻

大きな大きな瓦礫の山です。もはや、何が何だかさっぱりわからない。

【編集後記】 最後に今回の体験に関して特筆したい点を挙げておく。

- 津波被害が特に大きかったのは陸前高田や南三陸だが、それ以上に石巻の光景の方がショックだった。ここは流されたのが1階部分のみで、生活の跡を生々しく想像できる為だろう。
- 被災地を周っているときに感じたのは「一段の違い」だった。たった一段分高いだけで津波の被害を全く受けていない家の真下に、壊滅的な被害を受けた家がある。衝撃だった。
- 特に津波の被害が大きかった地域においてだが、まだ瓦礫が多く残っていて「5カ月経ってもこれか」というため息に近い感覚を持った。復興の道のりはまだまだ長いと実感した。——復興への闘いは続く。今回の体験を胸に、今後も被災地に寄り添っていきたい。